



プレスリリース

平成23年3月8日
内閣府
原子力政策担当室

(案)
**第12回アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
コーディネーター会合開催について**

- 内閣府は、平成23年3月15日(火)～3月17日(木)に福井県国際交流会館(特別会議室(3階))にて、第12回FNCAコーディネーター会合を開催いたします。
- FNCAは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ: <http://www.fnca.mext.go.jp/>)。
- コーディネーター会合は、メンバー国12か国(日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム)及びIAEAのオブザーバー参加により開催されます。
- 今次会合では、FNCA内で実施されている11プロジェクト*の活動報告、評価及び今後の計画について議論がなされます。また、「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」の第2回会合(昨年7月韓国開催)報告と次回会合の開催要領、第11回FNCA大臣級会合(昨年11月中国開催)のフォローアップ等に関する議論が行われる予定です。大臣級会合の主なフォローアップ項目は、
1) 研究炉利用とアイソトープ供給のためのネットワーク構築、2) 核不拡散/核セキュリティを含む原子力の基盤整備の知見の共有、3) 自然災害対策(地震、津波、火山噴火等)を含む原子力安全に関する取組、4) 原子力分野の人材育成協力強化、5) FNCAの今後の活動方針等です。
- また、原子力施設の立地地域での開催であることから、特別セッションとして「原子力発電と地域社会との共生」を設けるとともに、3日目には原子力発電施設等の施設見学を行う予定です。

※FNCA11プロジェクト

放射線育種、バイオ肥料、電子加速器利用、放射線治療、医療用PET・サイクロトロン、研究炉基盤技術、中性子放射化分析、原子力安全マネジメントシステム、放射線安全・廃棄物管理、人材育成、原子力広報

第12回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）コーディネーター会合開催について

1. 主催 内閣府
共催 文部科学省、福井県
2. 開催日時 平成23年3月15日（火）～3月17日（木）
3. 開催場所 福井県国際交流会館 特別会議室（3階）（地図別添）
（〒910-0004 福井市宝永3丁目1-1）
4. 参加予定国
オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム。
その他に、IAEAがオブザーバーで参加予定

※我が国からは、近藤駿介原子力委員会委員長、尾本彰原子力委員会委員、町末男日本コーディネーター及び関係省庁等が出席予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は、3月15日（火）の開会セッション（9：00～9：40）及び特別セッション（9：40～10：30）のみ可能です。

傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、セキュリティの都合上、事前登録が必要です。開催前（3月11日（金）12時）までに、以下の問い合わせ先に氏名、所属及び連絡先、撮影機材持ち込みの有無をご登録下さい。ご登録いただけない場合、傍聴席等が確保できない場合があります。

なお、取材は1社につき原則1名（撮影・照明のために入場する報道関係者は除く。）とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

（問い合わせ先）

内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付 原子力担当
朝岡、濱田、根塚

電話：03-3581-6690（直通）

FAX：03-3581-9828

第12回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） コーディネーター会合プログラム

日 時：平成23年3月15日（火）～17日（木）
場 所：福井県国際交流会館
主 催：内閣府
共 催：文部科学省、福井県

平成23年3月15日（火）

プレスオープン部分

セッション1：開会（9：00～9：40）

- ・ 記念撮影
- ・ 開会挨拶（近藤 駿介 原子力委員会委員長）
- ・ 歓迎挨拶（西川 一誠 福井県知事）
- ・ 参加者紹介等

特別セッション：原子力発電と地域社会との共生（9：40～10：30）

セッション2：第11回FNCA大臣級会合報告

セッション3：研究炉利用

セッション4：原子力広報

セッション5：IAEAにおける原子力技術のナレッジマネジメント（知識管理）の活動

セッション6：原子力の基盤整備、原子力安全

平成23年3月16日（水）

セッション7：放射線利用開発

セッション8：人材育成

セッション9：FNCAの今後の活動方針

セッション10：閉会

平成23年3月17日（木）

- ・ 「福井県国際原子力人材育成センター」の紹介（福井県主催によるサイドイベント）
- ・ 福井県内の原子力発電施設等の施設見学

*：各国等との調整により、プログラムを変更することがあります。

会場地図

場所：福井県国際交流会館特別会議室（3階）

（〒910-0004 福井市宝永3丁目1-1）

【交通手段】：JR福井駅から徒歩で約10分（タクシーをご利用の場合約5分）



第12回FNCAコーディネーター会合参加者一覧

【海外出席者】

①オーストラリア

- 1) Dr. Ron HUTCHINGS (ロン・ハッチングス)
オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)
エグゼクティブ統括マネージャー代理 (戦略、政府・国際関係)

②バングラデシュ

- 1) Dr. Farid Uddin AHMED (ファリッド・ウッディン・アーメッド)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 委員長
- 2) Mr. Dilip Kumar BASAK (ディリップ・クマー・バサク)
バングラデシュ科学情報通信技術省 (MOSICT) 事務次官補

③中国

- 1) Mr. LIU Yongde (リュウ・ヨンダ)
中国国家原子能機構 (CAEA) 国際合作司司長
- 2) Dr. SONG Gongbao (ソン・ゴンバオ)
中国国家原子能機構 (CAEA) 国際合作司副処長

④インドネシア

- 1) Dr. Taswanda TARYO (タスワンダ・タリョ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 次官 (研究開発研究利用及び科学技術社会化担当)
- 2) Dr. Darmawan DARWIS (ダーマワン・ダルワイス)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 上級研究員

⑤カザフスタン

- 1) Dr. Erlan G. BATYRBEKOV (エルラン・G・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力研究所 (NNC) 第一副総裁
- 2) Dr. Kuralbay BUHARBAYEV (クラルバイ・S・ブハルバーイエフ)
カザフスタン工業・新技術省 顧問・特別上級職員

⑥韓国

- 1) Mr. CHOI Doo Yong (チョイ・ドゥーヤン)
韓国 教育科学技術部 (MEST) 原子力局原子力協力副課長
- 2) Mr. CHO Seung Ho (チョ・スンホ)
韓国原子力国際協力財団 (KONICOF) 部長
- 3) Dr. NAM Youngmi (ナム・ヨンミ)
韓国原子力研究所 (KAERI) 原子力教育訓練センター (NTC) 国際教育チーム
長
- 4) Mr. JEONG Honghwa (ジョン・ホンファ)
韓国原子力国際協力財団 (KONICOF) 専門家

⑦マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor Muhd. YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)

- マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 副長官 (技術担当)
- 2) Dr. Noriah Binti JAMAL (ノリア・ビンティ・ジャマル)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 上級研究員
 - 3) Assoc. Prof Abdul Jalil NORDIN (アブドゥル・ジャリル・ノルディン)
プトラ大学核医学部部長
 - 4) Dato' Prof Humairah ABDUL SAMAD CHEUNG (フメイラフ・アブドル・サマド・チェン)
医学アカデミー核医学大学学長

⑧モンゴル

- 1) Mr. Gun-Aajav MANLAIJAV (マンライジャフ・ガンアジャフ)
モンゴル原子力庁 (NEA) 原子力技術部長
- 2) Ms. Gantuya DULAANJARGAL (ドゥランジャガル・ガントウーヤ)
モンゴル原子力庁 (NEA) 国際協力課

⑨フィリピン

- 1) Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長
- 2) Ms. Julietta E. SEGUIS (ジュリエッタ・E・セグイス)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所原子力規制・許認可・保障措置部長

⑩タイ

- 1) Mr. Sakda CHAROEN (サクダ・チャロエン)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 副所長
- 2) Mr. Samerjai SUKSUMEK (サマルジャイ・スクスメク)
タイエネルギー省電力政策局長
- 3) Ms. Kanchalika DECHATES (カンチャリカ・デチャテス)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 国際協力課長

⑪ベトナム

- 1) Prof. VUONG Huu Tan (ヴオン・フー・タン)
ベトナム原子力研究所 (VAEI) 所長
- 2) Dr. NGUYEN Nhi Dien (グエン・ニン・ディン)
ベトナム原子力機構 (VAEI) 原子力研究所所長

⑫国際原子力機関 (IAEA) <オブザーバー>

- 1) Dr. Yanko YANEV (ヤンコ・ヤネフ)
国際原子力機関 (IAEA) 原子力エネルギー局 INIS&NKM 部
原子力ナレッジマネジメント課長
- 2) 花光 圭子
国際原子力機関 (IAEA) 原子力エネルギー局 INIS&NKM 部
原子力ナレッジマネジメント課ナレッジマネジメント専門官
- 3) Dr. LEE Mun Ki (イ・ムンキ)
国際原子力機関 (IAEA) RCA 地域オフィス部長

- 4) Mr. Kesrat SUKASAM (ケスラット・スカサム)
国際原子力機関 (IAEA) RCA 担当・プログラム管理担当

【国内出席者】

- ①町 末男
FNCA 日本コーディネーター (元原子力委員会委員)
- ②中井 弘和 (放射線育種)
静岡大学名誉教授 元副学長
- ③横山 正 (バイオ利用)
東京農工大学 共生科学技術研究部 生命農学部門 教授
- ④玉田 正男 (電子加速器利用)
独立行政法人日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門 環境・産業応用研究開発ユニット ユニット長
- ⑤辻井 博彦 (放射線治療)
独立行政法人放射線医学総合研究所 理事
- ⑥岡沢 秀彦 (医療用 PET・サイクロトロン)
福井大学高エネルギー医学研究センター生体イメージング部門 教授
- ⑦山下 清信 (研究炉利用—研究炉基盤技術)
独立行政法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所研究炉加速器管理部長
- ⑧海老原 充 (研究炉利用—中性子放射化分析)
首都大学東京大学院 理工学研究科 教授
- ⑨中村 武彦 (原子力安全管理システム)
独立行政法人日本原子力研究開発機構 安全研究センター
高度化軽水炉燃材料研究グループリーダー研究主幹
- ⑩小佐古 敏荘 (放射線安全・廃棄物管理)
東京大学 大学院 工学系研究科 原子力専攻 教授
- ⑪杉本 純 (人材育成)
独立行政法人日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター センター長
- ⑫久保 稔 (原子力広報)
独立行政法人日本原子力研究開発機構広報部 部長
- ⑬千崎 雅生
独立行政法人日本原子力研究開発機構核不拡散・核セキュリティ総合支援センター長
- ⑭来馬 克美
財団法人若狭湾エネルギー研究センター専務理事
- ⑮清水 英男
福井県総合政策部電源地域振興課課長

○その他に、西川一誠福井県知事、近藤駿介原子力委員会委員長、尾本彰原子力委員会委員及び関係省庁等が出席予定。

○調整により、出席者が変更されることがあります。

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的發展を促進することを目指す

2. 参加国

オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一堂に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月（タイ）大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月（東京）尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月（韓国）細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月（沖縄）茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月（ベトナム）棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月（東京）松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月（マレーシア）平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月（東京）岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月（フィリピン）増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月（東京）菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成22年11月（中国）和田内閣府大臣政務官出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第12回は日本がホスト予定

② 「検討パネル」

平成16年から平成18年の3ヵ年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル（第1フェーズ）を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。

その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から平成20年の2ヵ年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1）原子力

発電分野における人材養成、2) 原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成20年11月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成21年から3年間「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成16年10月 東京
- 第2回 パネル会合 平成18年1月 東京
- 第3回 パネル会合 平成18年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成19年10月 東京
テーマ：原子力発電分野における人材養成
議長：杉本 純
(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長
→ フォローアップとして、「原子力発電のための人材養成データベース」をJAEAの委託で実施。平成21年4月から運用開始。
- 第2回 パネル会合 平成20年9月 東京
テーマ：原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について
議長：早田 邦久
原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成21年7月 東京
議長：伊藤 隆彦
原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問
- 第2回 パネル会合 平成22年7月 韓国
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Mr. SHIN Jae Sik (シン・ゼシク) 韓国教育科学技術部(MEST)
原子力局 原子力協力課長
- 第3回 パネル会合 平成23年 インドネシア (開催予定)

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとした。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。

(開催実績)

○第 1 回	コーディネーター会合	平成 1 2 年 3 月	東京
○第 2 回	コーディネーター会合	平成 1 3 年 3 月	東京
○第 3 回	コーディネーター会合	平成 1 4 年 3 月	東京
○第 4 回	コーディネーター会合	平成 1 5 年 3 月	沖縄
○第 5 回	コーディネーター会合	平成 1 6 年 3 月	東京
○第 6 回	コーディネーター会合	平成 1 7 年 3 月	東京
○第 7 回	コーディネーター会合	平成 1 8 年 3 月	東京
○第 8 回	コーディネーター会合	平成 1 9 年 2 月	東京
○第 9 回	コーディネーター会合	平成 2 0 年 3 月	東京
○第 1 0 回	コーディネーター会合	平成 2 1 年 3 月	東京
○第 1 1 回	コーディネーター会合	平成 2 2 年 3 月	東京
○第 1 2 回	コーディネーター会合	平成 2 3 年 3 月	福井 (開催予定)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

F N C A は、「放射線利用開発/産業利用・研究利用」、「放射線利用開発/健康利用」、「研究炉利用」、「原子力安全強化」、「原子力基盤強化」、の 5 つの分野で 1 1 のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国 1 名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年 1 回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み

